2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　２０22年　１０月　３０日
● 事　業　名　：　希望をみらいへ～こどもホスピスプロジェクト
● 資金分配団体　：　公益財団法人原田積善会

① 　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１-1）資金分配団体の資金的支援を通して**新規開設したい実行団体**が、設立計画を具体的に立案する	事業計画、資金計画（または進捗状況）	最終目標はホスピス設置だが事業フェーズによってはそれ以前の目標となる	事業期間終了時	各団体が事業計画・資金計画を策定し実践する中で、実情に即した見直しを検討している。 （例：北海道は札幌市に仮の拠点を開設し実績を積みながら本施設設立に向けた準備を進める、など）	2
１-2）資金分配団体の資金的支援を通して**新規開設したい実行団体**が人材（就労者、ボランティア、協力企業など）を確保する	個人、企業からの協力（人的・資金的）	事業開始時よりも増えている	事業期間終了時	休眠預金事業を展開することで、活動をアピールすることが出来るようになり、関心が高まっている。活動が活発化するにつれ、運営側の人材の不足が課題となっており、スタッフ雇用、ボランティア説明会などを実施（または検討している）。一方で、コロナ禍でボランティアが必要となる参集型のイベントを制限せざるを得ない実情もあり、ボランティアの有効活用も課題となっている。	2
１-３)資金分配団体の資金的支援を通して**新規開設したい実行団体**が必要な資金源を確保する	資金源の数、額	事業開始時よりも増えている	事業期間終了時	活動が活発化し、募金活動やメディア露出が増えるにつれ、寄付も増えてきている。具体的には、⇒A)アウトカムの進捗状況　資金的支援（設置済み実行団体）の欄に記載	2

２-１）資金分配団体の資金的支援を通して**設置済みこどもホスピスが**人材（就労者、ボランティア、協力企業など）を確保する	個人、企業からの協力 （人的・資金的）	事業開始時よりも増えている	事業期間終了時	横浜・奈良ともに、地域に開かれた施設となるべく、地域連携・交流を積極的に展開し、ボランティアや地域リソースを開拓している。病院併設の東大寺福祉事業団は特にコロナ禍の影響が大きく、活動・人材の拡張には慎重にならざるを得ないが、独創的なアイデア（アート活動など）を取り入れながら協力者を増やす試みを続けている。	2
２-２）分配団体の資金的支援を通して**設置済みこどもホスピスが**必要な資金源を確保する	資金源の数、額	事業開始時よりも増えている	事業期間終了時	事業開始時よりも、個人・団体の会員数、寄付金額が増加している。	2
3）資金分配団体の資金的支援を通して、実行団体が、難病児支援を行っている関連団体と情報共有をし、支援の幅を広げられるような連携強化の基盤を作る（支援団体や活動内容の情報集約やネットワーク形成）	①資源・ステークホルダーに係るエコマップ等の内容 ②連携の事例	事業開始時よりも増えている	事業期間終了時	資源・関連団体などのエコマップなどは出来ておらず、単発的な情報共有に留まっている。（連携の事例：ロシュ・ダイアグノスティックス社との連携によるイベント開催）	3

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1-1）資金分配団体が主体となり、こどもホスピス・小児緩和ケアの意義や役割の理解促進につながるシンポジウムなどの開催	①シンポジウムなどの開催回数、参加者数	①増加している	事業期間終了時	**該当期間内にシンポジウムの開催は予定されていなかった。**	3
	②開催後の意識調査	②意識調査で理解や関心の向上が認められる	事業期間終了時	**同上**	
	③こどもホスピス設立に関心を示す個人・団体数	③こどもホスピス設立などに関する問い合わせや意識が高まっている	事業期間終了時	**同上**	
1-2）資金分配団体が主体となり、こどもホスピス・小児緩和ケアの研修機会の提供	①勉強会などの開催回数、参加者数、参加者層	①増加している	事業期間終了時	**該当期間内に研修の実施は予定されていなかった。**	3
	②意識調査	②意欲向上、満足度が確認できる	事業期間終了時	**同上**	
	③テキストなどの教材の作成、配布（数、利用状況）	③配布数や配布先が広がり、満足度が確認できる	事業期間終了時	**同上**	
1-３)資金分配団体が主体となり、実行団体の実践力の基盤強	④実行団体からのポジティ	④研修の成果を事業に生かせたという肯定的な感	事業期間終了時	**中間評価に向け、集合研修を 7 月に実施。その後、団体ごとの個別相談でフォロー。**	2

化のための研修機会の提供	ブなフィードバック	想が聞かれる。			
2-1）資金分配団体が主体となり、設立準備活動の効率化を目指し、各地のこどもホスピスおよび設立準備団体間で情報共有ネットワークを形成	①定期勉強会などの開催数、参加者数	①開催数が増加する	事業期間終了時	実行団体協議会を 4/28、7/20、8/30 に開催。	2
	②相互研修や視察の機会（数、種類、参加者数）	②研修や視察の機会が増加する	事業期間終了時	該当期間内に研修や視察は実施していない。	3
	③ネットワークでの情報共有の満足度	③実行団体に対する連携に関する意識が高まっている	事業期間終了時	実行団体協議会などで情報共有をすることで、刺激を与え合い事業の改善に繋がっているケースもあり、情報共有の意義を確認したという声もあった（例：北海道が福岡のホスピス＆ハウスの取り組みから、札幌市の仮の施設の開設に繋がった）	2
2-2）資金分配団体が主体となり、各地のこどもホスピスおよび設立準備団体が協力して共通の声として広報・資金調達活動を行う基盤ができる	①共通課題やニーズの把握・共有（課題認識、調査）	①共通課題に応じて、連携して広報・資金調達などを行った実績が出来ている。	事業期間終了時	実行団体協議会を通して、こどもホスピスの定義に繋がる「ファクトシート」を作る取り組みを開始。その過程で、共通課題やニーズなどを整理している最中である。	2
	②協力して行う広報・資金調達活動の内容	②共通課題に応じて、連携して広報・資金調達などを行った実績が出来ている。	事業期間終了時	該当期間内に連携して広報・資金調達を行っていない。	3
３）資金分配団体が主体となり、住民、企業、医療・福祉関係者の理解促進につながるテーマで広報啓発活動（シンポジウム、勉強会、啓発活動など）実施	①勉強会やフォーラムへの参加者（個人、企業）の数・割合・多様性	①増加し、多様化している。	事業期間終了時	該当期間内に勉強会やフォーラムを開催していない。	3

	②メディア露出（記事や媒体）の数・内容	②露出の頻度や内容などが充実している。	事業期間終了時	**同上**	3
	③理解や支援に対する関心度合・内容（アンケート）	③意識調査などで理解や関心の向上が確認できる。	事業期間終了時	**同上**	3
	④企業連携など支援形態の事例	④支援形態が多様化し、企業連携などの幅が広がっている。（参入しやすくなっている）	事業期間終了時	**同上**	3
４）資金分配団体が主体となり、行政の関心とコミットメントを引き出すアドボカシー活動を展開	行政への政策提言に向けた情報の共有（国内外の研究、統計データなどの収集・提供）	資金分配団体による情報収集・共有により、行政への説得力が増したという肯定的な意見が得られる	事業期間終了時	**アドボカシーや議論の土台となる「ファクトシート」を準備中。**	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし　☐ 短期アウトカムの内容　☐ 短期アウトカムの表現　☐ 短期アウトカムの指標　☐ アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
協議会や団体ヒヤリングなどは全てオンラインで実施。
6. 実行団体の進捗に関する報告
各団体とも、コロナ禍という大きな課題に直面しながらも、工夫をしながら活動を停止することなく進捗している。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

2.広報制作物等

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	主担当：北海道、東京、横浜、福岡	PO1 名	公益財団法人原田積善会
内部	主担当：奈良	PO1 名	公益財団法人原田積善会

A） 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
新規開設を目指す実行団体 （北海道、東京、福岡）	①新規開設の状況 ②実行団体による予算の調達状況（助成金や補助金の獲得等） ③実行団体による人材調達状況（ボランティア、企業等） ④建設用地の取得状況	2-3 か所の新規こどもホスピスの開設に目処が立つ （開業まで至らないとしても準備状況に顕著な前進がみられる）	事業期間終了時	①新規開設には至っていないが、北海道が3LDK のマンションで「仮の施設」を開所。福岡は、福岡市のこども病院跡地のサウンティング調査に申請するなど、手を尽くしている。 ②横浜、北海道、東京などは他の助成金にも積極的に申請・獲得しており、「休眠預金の事業計画・資金計画策定経験が助成金獲得のスキル向上に繋がった」との肯定的な声もあった。 福岡は認定 NPO 法人格取得を目指し準備中。 ③ボランティアについては、コロナ禍により大幅に増やすことが出来ない状況であるが、希望者が多いことは良い傾向だと評価できる。ボランティア活用に対応する人員の手当てが追いついておらず、事務局の人材不足はどの団体も課題と感じている。中間

				評価を通じて、ボランティア活用の研修の必要性や実行団体間でのボランティアバンク（仮）のような構想も生まれたので、その点を強化改善していく予定。（それに伴い資金計画の見直しの可能性あり） ④活動が活発化するにつれ、各団体とローカルな支援団体とのコラボ企画なども増えている状況。福岡では、小児がん団体や福岡市内の屋台協会との募金活動、北海道では患者団体からの協力、横浜では地元支援者によるチャリティイベントなどが行われている。
設置済み実行団体（横浜、奈良）	①実行団体による予算の調達状況（助成金や補助金の獲得等 ②実行団体による人材調達状況（ボランティア、企業等） ③ローカルのホスピス支援団体からの支援状況	ボランティア人材、ローカルの企業による寄附などの支援体制の改善 〃	事業期間終了時	①横浜は、活動が活発化し、メディア露出や見学希望者も増加し、啓発ツールも充実させており、寄付金も順調に増えている。また、助成金やクラウドファンディングなどを積極的に活用し、自己資金を獲得している。 ②横浜は、ボランティア登録者も約 300 名と多く、ハウスキープ、植栽、イベント、事務など分野ごとにボランティアマネージメントをしており、日常的な業務にローカルな力を活用している。「グリーフの会」には、遺族でもあり支援者でもある有資格者を講師として起用し、団体として新しい取り組みも開始することができた。 ③東大寺は、地元の理解促進が事業の柱の一つとなっており、地元の大学生や支援者などの支援が加わり、アート体験やオンラインお出かけなど、支援の幅が広がりを見せ始めている。

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
【サービス水準の向上】 ①実行団体のこどもホスピス（または事業）が、本人と家族の QOL を高めるというコンセプトに立っているか（世界水準といえるかどうか）を、利用者・関係者（スタッフ・ボランティア・イベント参加者含む）のヒヤリングで確認する ②こどもホスピスの本来の意味や小児緩和ケアの理解に関する意識調査	①利用者・関係者へのヒヤリングで本人と家族の QOL が高まったと回答する割合が利用前より増える ②意識調査で理解が向上していることが確認できる	事業期間終了時	①こどもホスピスが本人と家族の楽しみや不安軽減に貢献しているという手ごたえを各団体が利用者・関係者の声から感じていることが把握できた。（相談支援、グリーフの会、こどもホスピスのデイユース、お泊りを通して）具体的には、相談支援事業では「相談してよかった」「話せてよかった」という声が寄せられており、孤立感の改善の兆候が感じられるとの報告があった。 ②シンポジウムや講演会などのアンケート結果から、こどもホスピスに対する理解が向上したことが確認できている。具体的には、2022 年 2 月 14 日のサミットおよび 2022 年 3 月 25 日、26 日のセミナーのアンケート結果から、サミット・セミナー前後で理解や関心の向上が確認できた。 ＊サミット参加前と比較して理解が深まったと感じた参加者： そう思う（82.0%）、ややそう思う（16.4%）、どちらでもない（1.6%） ＊セミナー参加前と比較してこどもホスピスにおけるトータルケアの重要性の理解が深まったと感じた参加者：そう思う（79.8%）、ややそう思う（29.2%）
【団体同士の強固な連携】 ①達成度に関する関係者アンケート、インタビュー等、 ②共通目標の達成度合いに関する関係者アンケート、インタビュー等	①②肯定的な意見が初期値よりも増えている	事業期間終了時	達成度に関するヒヤリングやアンケートは未だ行っていないが、実行団体については、実行団体協議会や研修における情報共有や議論の過程で、互いにアドバイスしあうなど関係者間の連携の深まりは感じられる。 実行団体以外も含めた関係団体については、こどもホスピスのあり方、課題、などを整理するために「ファクトシート」（仮）を作る過程で、共同体意識を醸成することも目指しており、進行中である。さらに、2022 年 11 月の「こどもホスピスを応援する議員連盟」発足にあたり、要望活動を行っていく「全国こどもホスピス支援協議会」を 15 団体で設立。共通目標を持つことで、さらなる連携強化につながると考えている。

【社会的認知向上、支援増加】 ①新聞記事やメディア露出の増加 ②事業対象のグループ全体での寄附の増加、企業連携など支援形態の広がり	①新聞記事などの増加 ②事業対象のグループ全体での寄附の増加″	事業期間終了時	①各団体ともに新聞・雑誌、テレビ、ラジオなどでの発信が増えている（総数は要確認）。また、小児看護、家族看護、緩和ケアなどの分野の学会や講演会などでも、発表の機会が増えている。 ②実行団体全体として寄付は増えている（正確な金額は要確認）。オンライン寄付やマンスリー会員制度なども取り入れ、認定法人格取得を視野に入れた努力を重ねている。
【社会的認知向上、行政支援】 ①アドボカシーの進行具合 ②勉強会・フォーラム等への行政職員の参加者数	①会合の結果としての進捗がある、具体的な施策の立案がある ②初期値よりも増えている	事業期間終了時	①②北海道、福岡、東京などの議会でこどもホスピスについての質疑応答や、こども家庭庁準備室の視察とヒヤリングがあり、こどもホスピスがこども施策のアジェンダの一つととらえられたことは大きな変化と言える。実行団体の地元議員が視察にも訪れている。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である	それぞれの実行団体が短期アウトカムは達成できる状況がヒアリングによって明らかになった。

☐　短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	

B)　事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動は計画通りに実施されているか	計画では事業期間を通して、全国こどもホスピスサミット（3回）、世界こどもホスピスフォーラム（2回）が予定されていたが、 こども家庭庁の創設や、JANPIA からのアドバイスなどもあり、こどもホスピスの定義の検討が優先事項として挙がってきたこともあり、現時点ではサミット1回、フォーラム0回となっている。	全国こどもホスピスサミットは、参加者のアンケート結果からもこどもホスピスの理解促進に大きく寄与したと評価できるが、今後のアドボカシー強化の面でも、こどもホスピス関連団体（実行団体以外も含む）同士の連携強化、合意形成の意味でも、事業期間終了後の中間組織への準備という観点からも、こどもホスピスの概念整理が急務と判断され、実行団体協議会を軸に「ファクトシート（仮）」作成やこども家庭庁・国会議員などとの話し合いが始まっている。サミットやフォーラムの回数を減らし、実行団体や他のこどもホスピス団体も含むワークショップなどを開催しながらまとめ、最終年度のサミットで公開することを目標に、事業計画・資金計画を改定する予定。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	資金分配団体は実行団体の知見を広く共有できるよう整理・蓄積しているか	実行団体協議会で知見や情報の共有をしている。 また、実行団体の活動を広く共有できるよう、分配団体のウェブサイトに実行団体のページを作っている。 一方で、実行団体以外の団体や一般社会に共有するための取り組み（整理・蓄積）はまだ十分ではない。	協議会は定期的に開催することが望ましいが、代表者全員が参加できる日程調整は難しく、不定期開催となっている。進捗共有や課題共有などが議題となることが多いが、まだ試行錯誤の段階でもある。 実行団体の活動の周知に関する取り組みとしては、サミット開催や報告書があるが、実行団体の知見や経験を広く共有できるよう整理・蓄積する仕組みは今後検討していく必要があると考える。

組織基盤強化・環境整備	＊実行団体の環境整備はどの程度強化されたか	各団体とも、スタッフミーティング、運営者ミーティング、会員ミーティング、理事会など、内部での情報共有や意思決定をする組織環境を整えてきているが、開催頻度、関与しているスタッフの人数、機能している度合いなどは団体のフェーズやキャパシティによってまだばらつきがある。	多くの団体が人材不足を課題としてあげており、ミーティングの開催、イベントの開催、相談支援、地域交流、子どもと家族へのホスピスケアなどを実践しているが、データ入力や蓄積などに手が回っていない状況が見られる。 今後、人材雇用やボランティアの活動を検討するために事業計画・資金計画の見直しが必要になる団体もあり、分配団体としてもどのような伴走支援ができるのか検討していく。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

これまでのこどもホスピスの活動は、各団体の個別の努力であったが、休眠預金で同時多発的に活動が展開され、メディアや SNS などで次々に目に見える露出・発信が行われているインパクトは大きく、議員レベルまで一般社会に関心が高まった。

横浜や TSURUMI の活動が大きく貢献しているが、団体同士でそのノウハウやチャンスを上手く活用しよう、してもらおうという協力関係が良い流れを作っている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

実行団体および関係団体でファクトシート（仮）の作成の動きが出てきて、実際に作成を開始したこと。

全国こどもホスピスサミットや各実行団体の活動が活発化し、各地の議員等が関心を寄せて議会で質問するなど、目に見えて関心度が高まり、アドボカシーの活動が加速化した。それによって、こどもホスピス全体として底上げしていく機運が強まった。

④　事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

☑　社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
☑　受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
☑　事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
☑　残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
☑　短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、 ☐　事業計画は適切に改善されたといえる ☑　事業計画を適切に改善する見込みがある ☐　事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	こども家庭庁の創設や各地の議員のこどもホスピスに対する関心の高さなど、こどもホスピス設立準備にポジティブな流れが起きていると考えている。この機会を最大限に活用するためにも、実行団体＋他のこどもホスピス関連団体などとも協力しながら、こどもホスピスの普及に向けて事業内容を適応（改善）させていく必要があると考える。

⑤　中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

実行団体の活動の活発化、アドボカシー等の動きが出てきたことで、資金分配団体の人員体制強化を検討するタイミングとなってきた。 現状、資金分配団体が、全国の「こどもホスピス」の中間支援組織としての役割を担っており、休眠預金事業終了後、この機能をどのように継続していくか検討を始めなければならない。

添付資料
活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、３～4 枚程度）